

# 杭瀬地域まちなか再生区域まちなか再生評価書

## 1 まちなか再生区域の概要

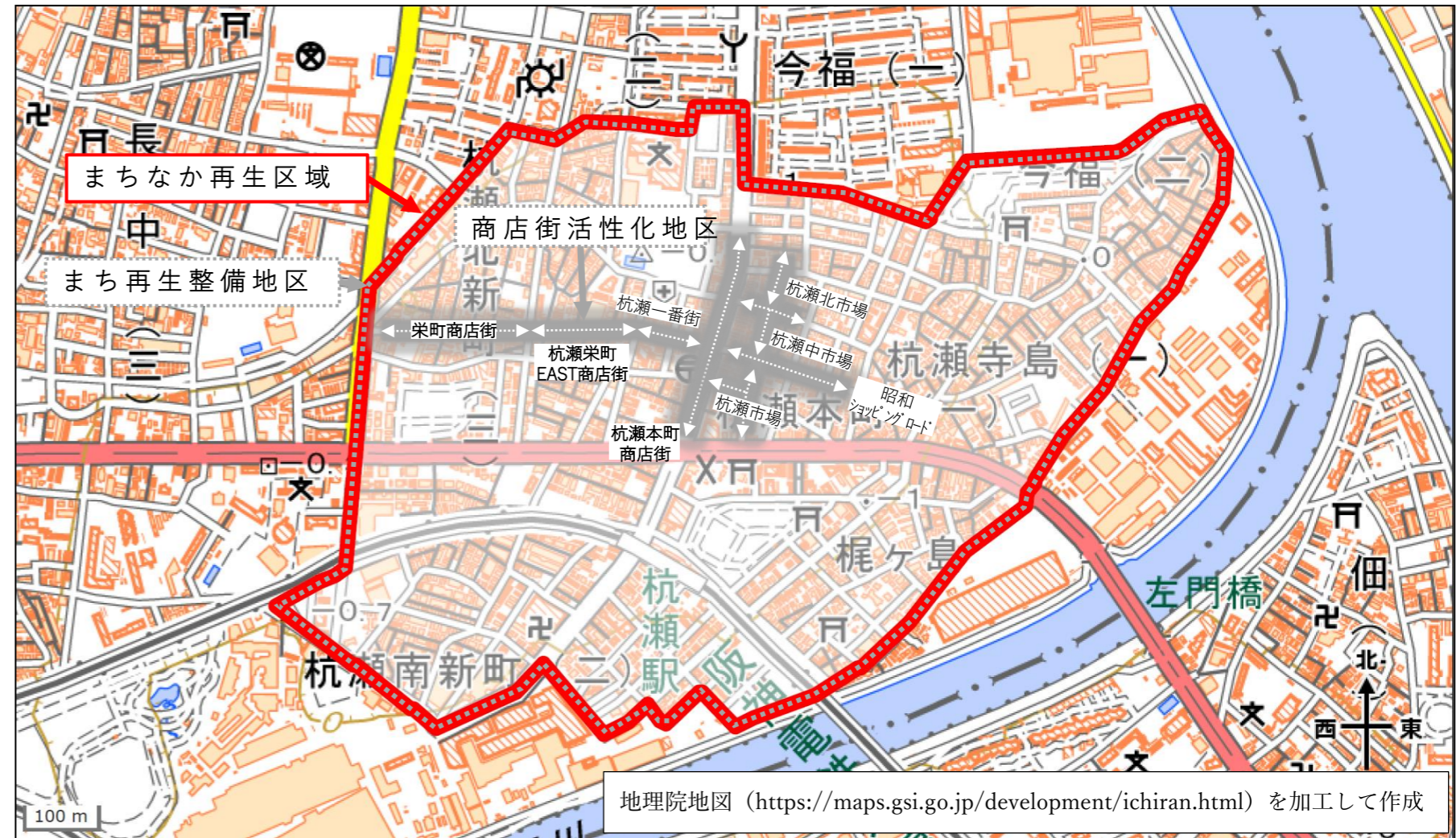
名称	杭瀬地域まちなか再生区域
指定年月日	令和2年6月19日
区域面積	約65ha

## 2 まちなか再生協議会の概要

名称	杭瀬地域まちなか再生協議会
設立年月日	令和2年7月1日
団体構成	杭瀬アクションクラブ（各商店主や地域住民による活動団体）、杭瀬社会福祉連絡協議会、左門殿社会福祉連絡協議会、地元企業（建設会社、不動産会社）

## 3 まちなか再生計画の概要

名称	クイセアクションプラン（杭瀬まちなか再生計画）
策定年月日	令和3年3月20日
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規開店数5年で5店</li> <li>アクションクラブメンバー100人</li> <li>杭瀬の家守になろう</li> <li>お店のバトンタッチを</li> </ul>
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでなかった新たな挑戦をまちぐるみで応援しよう</li> <li>新たなプレイヤーが参入できるような場をひらこう</li> <li>ゆるやかに連携しながらプロジェクトをすすめよう</li> <li>地域資源を再評価し新たな価値を見つけて育てよう</li> <li>ともにごきげんに暮らし働くことができる地域にしよう</li> </ul>





地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

## 4 活用したまちなか再生事業等

事業名称	①まちなか再生アドバイザー派遣事業	②まちなか再生協議会等運営支援事業																
認定年月日	-	-																
事業期間	令和元年度～令和3年度	令和2年度～令和6年度																
概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>派遣回数</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年</td> <td>11回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>14回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>6回</td> <td>計</td> <td>31回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	派遣回数			令和元年	11回			令和2年	14回			令和3年	6回	計	31回	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなか再生計画策定</li> <li>住民参加型DIYワークショップによる活動拠点整備</li> <li>情報発信サイトの製作・運営</li> <li>都市公園（杭瀬公園）の暫定利用</li> <li>住民参加型DIYワークショップによる空き家のリノベーション</li> <li>都市公園（杭瀬公園）の活用</li> <li>市場関連事業の開催</li> <li>さかさま不動産尼崎支店の運営</li> </ul>
年度	派遣回数																	
令和元年	11回																	
令和2年	14回																	
令和3年	6回	計	31回															
事業費（県・市補助額）	1,550千円（31回）	12,223千円																

## 5 5年間で実施した主要な活動

事業内容		写真
市場関連事業の開催	<p>目的： 杭瀬地域の商店街については空き店舗が多くシャッター通りとなっている。市場マルシェ等のイベント開催による関係者の増加と、これらを通じて商店街を訪れる人を増やし、新規出店等への波及を促す。</p> <p>成果： 毎月の定期的なマルシェや年2回のつまみ食いラリーの実施により、市場や商店街の店舗認知度の向上、新規顧客の定着が効果として表れている。つまみ食いラリー参加店舗も40店舗となり、年々増加傾向にあり地域イベントとして定着してきている。また、マルシェ当日に抽選会やミニライブ開催などの工夫で更なる来場促進を実施できた。</p>	
事業費	332千円	
事業期間	令和4年度～令和6年度	
課題：	マルシェやつまみ食いラリーなどイベント実施時の集客効果は高いが、通常営業時の来店促進への波及が十分とは言えない。また地域イベントとして定着しつつある一方で、より広域からの来訪者を呼び込む仕組みの強化が求められる。	
空き家・空き店舗活用事業	<p>目的： 杭瀬区域では遊休不動産となっている空き家・空き店舗が多く、不動産会社に取り扱っても流通が中々促進されない現状であることから、NPO法人と連携したDIYリノベーションを実施し、空き家・空き店舗の活用を促進する。</p> <p>成果： 区域内の不動産会社等と連携し、空き家等の改修の一部に地域住民によるDIYリノベーションを活用し流通可能な物件へと再生させたところ、当該物件に転入してもらうことができた。改修物件を調査・選定するとともに、DIYリノベーションに廃材やリサイクル品を活用して費用をより安価に抑えることで、区域外の住民や高校生・大学生等の参加に繋げることができた。</p>	
事業費	1,327千円	
事業期間	令和3年度～令和6年度	<p>課題： 区域外住民や学生の参加は得られているものの、継続的な参加者の確保や担い手の固定化が課題。</p>
公園の暫定活用（地域一体となった公園活用手法の確立）	<p>目的： 杭瀬地域の公園については、現状では利活用があまり進んでおらず、また市から管理を委託されている自治会役員等の高齢化により今後の管理方法についても課題を抱えていることから、地域一体となって公園を利活用・管理する手法を確立しつつ、公園整備ワークショップ等による関係者の増加と、屋台マルシェを通じての商店街への新規出店等の波及効果を目指す。</p> <p>成果： 杭瀬公園においてR3年度に砂場の芝生化やアートイベント、R4～5年度に公園管理棟のDIYリノベ企画等の活動を行ったところ、公園をベースとした活動が増え、地域交流の場として利用者が増えている。</p>	
事業費	2,866千円	<p>課題： 利用を通じた交流は進んでいるが、組織的・継続的な地域連携体制の構築には至っていない。</p>
事業期間	令和3年度～令和5年度	

## 6 まちなか再生協議会によるまちなか再生事業における自己評価

住民参加型DIYによる空き家のリノベーションや都市公園の暫定利用などの社会実験等において、商業者だけでなく、地元高校生や大学生などの若い世代を巻き込んだ取組を展開できたことは大きな意味があると考えます。いずれの取組においても、イベント時に依存した集客構造や担い手の継続確保、効果の波及・定着、運営体制の持続性といった課題が残っていることから、今後は、これらの取組を一過性の成果に留めることなく、日常的な来訪・定住・地域活動へつなげる仕組みづくりや、関係主体の連携強化による持続可能な運営体制の構築が必要と考えています。

<参考：まちなか再生協議会等運営支援事業 補助対象経費（単位：千円）>

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	計
まちなか再生計画策定費	1,000					1,000
広報費	830	300	120	580	63	1,893
社会実験・実証実験費	409	1,793	1,900	980	1,138	6,220
・住民参加型ワークショップ活動拠点整備	(409)					
事業推進費					659	659
事務所借上費		651	600	600	600	2,451
計	2,239	2,744	2,620	2,160	2,460	12,223